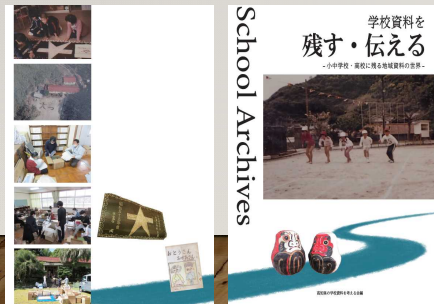


# 学校資料を整理・保存する

— 県内の廃校小中学校の実践例から —



高知県の学校資料を考える会  
楠瀬慶太

## 今日のお話



付属資料 (PDF)  
も参考に

- 導入
- 学校資料残しておけば? → 12の価値
- 古い資料どう残す? → 保存科学の知識で長く保存する方法
- どう整理保存する → 地域での整理保存の流れ (土佐清水、室戸市教委の事例)
- 目録化の難しさ → 東京大学公文書館、高知資料ネットの3段階目録

全国で注目されている地域での保存活動

→ 公文書管理にも応用できるのでは?

(導入 地域資料に関わって)

## ～自己紹介も兼ねて～

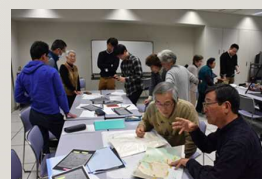
- 普段の仕事は高知新聞の記者。入社14年目。香美市出身・父方は安芸市(社会部、幡多支社・窪川支局を経て学芸部で歴史・美術等を担当)
- 大学院で歴史学を勉強(専攻は日本中世史で、村落史が専門)  
→ 休日に歴史の調査・研究を行う在野研究者。
- 2016年発足の「高知地域資料保存ネットワーク」の事務局、会計。
- 2019年発足の「高知県の学校資料を考える会」の初代事務局長。現在監査。



(導入 地域資料に関わって)

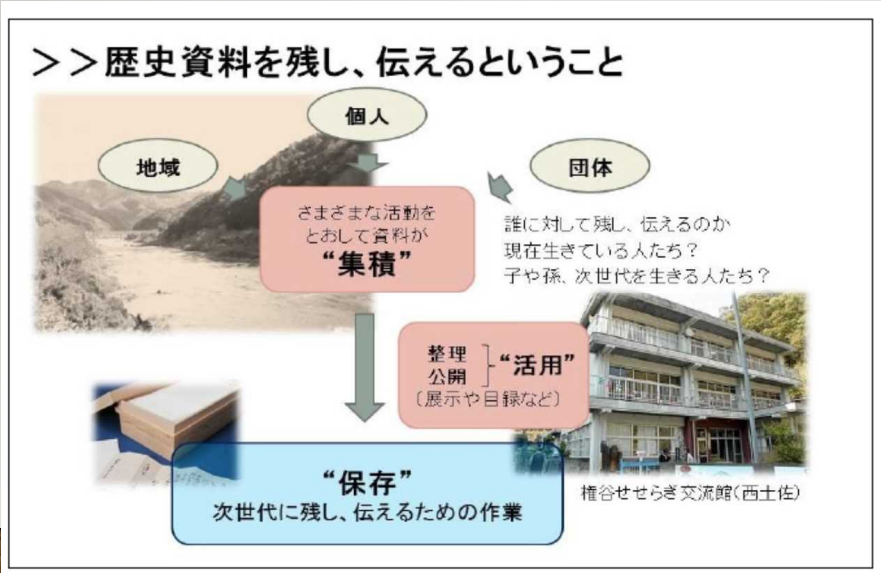
## ～地域の近現代資料を救う活動～

- 過疎化が進む地方では、公的機関の支援が行き届かない近現代の資料が散逸危機
- 記者として地域に住み感じた実情。「歴史学」にできることは?
- 住民有志が立ち上げたボランティア団体「高知地域資料保存ネットワーク」(旧高知戦争資料保存ネットワーク)の事務局を務め、近現代の資料保存に関わる
- 月1回の定例会。公的機関が対応できない地域資料の記録整理を連携して行う。



→ 6年間で78件4千点の史料を整理  
学校資料の保存活動と併せて、そのノウハウの一部を話します。

# 前提



- 資料（公文書）を置いておくでなく、**残し、伝える**ということは…
- 活用  
**整理と公開**をする
- 保存  
**保存環境を整える**

## 1、学校資料残しておけば… 何が分かる？どのように活用できる？

### (1) 学校資料の12の価値

紙媒体に限定されないさまざまなモノやコト

#### ●学校 150年近い歴史－地域の中心・拠点

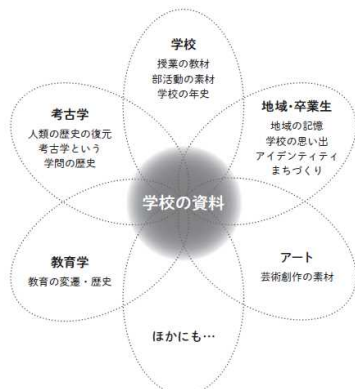
資料には学校にとどまらない**住民共通の記憶、地域の記録**－**地域資料（地域資源）**の可能性

→ **現用文書**としての活用とは別に、**歴史公文書**としての活用の可能性



表1 学校資料の価値 (村野・和崎編 2019より作成)

資料価値	概要
1 学校史的価値	学校の年史、沿革、特色、そのうつりかわりなどがわかる。
2 教材的価値	現在の授業や学校活動での教材として利用できる。
3 教育学的価値	教育の変遷や今の教育のあり方を考えられる。
4 部活動的価値	地歴部などの部活動をおこなうためのきっかけ・資源となる。
5 地域史的価値	地域の姿や記憶を物語る。
6 学術的価値	人類の歴史を研究する考古学・歴史学・民俗学など学問の素材、研究素材となる。
7 学問史的価値	考古学や科学などの学問の歴史がわかる。
8 産業史的価値	教材作成などに携わった産業界のことがわかる。
9 象徴的価値	卒業生や教員、地域住民などの思いやアイデンティティ、記憶の拠り所、シンボルとなる。
10 社会的関係価値	資料の調査が資料に関わる人々を連帯し関係構築をうながす。
11 アートな価値	学校の美的景観づくりや現在のアートの素材となる。
12 ほかに…	



- **文書管理規定の枠を超えて歴史資料・地域資料としての学校資料を残す基準、活用の可能性**
- 「記録」して**地域・学校・教委で「公開」判断**

学校にとどまらない住民共通の記憶、地域の記録、地域資料の可能性  
 → 現用文書としての活用とは別に、歴史公文書としての活用の可能性



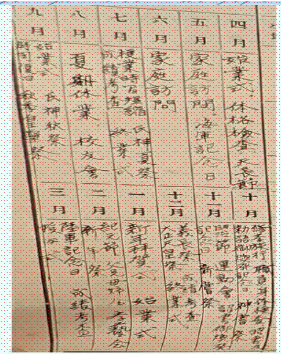
## (2) 学校資料から何が分かる？

2021年閉校の中川内小中学校  
 同校体育館の展示パネルより

### ●学校沿革史（誌） → 永年保存

→ 沿革に加えて古い重要文書が挟み込まれる場合（多）

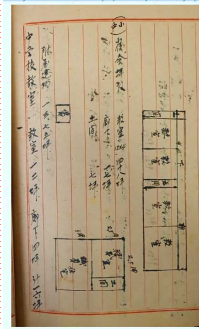
- ① 学校史的価値（自治体史、学校史）
- ② 教材的価値（昔の学校・地域）
- ⑤ 地域史的価値（地域の現状）



戦前の学校の年間行事  
 (『学校沿革史』より)

▼ 家庭訪問、体格検査、氏神夏祭・授業短縮、修学旅行、校友会、運動会、成績考査…

▼ 天長節、明治節、陸軍記念日、海軍記念日、大正天皇祭



一九五二年当時の校舎の図面  
 (『学校沿革史』より)

七〇年前の中川内小中学校と地域  
 校長室に保存された『学校沿革史』は、学校の歴史に関する公式記録で、永年保存の重要資料です。ここに、一九五二（昭和二十七年）の中川内小中学校の概要が記録されているほか、地域の概況も記されていました。  
 それによると当時の校区の集落は、中川内六〇戸、冬の瀬三戸、中釜一〇戸、黒見二〇戸、三十代八戸、北生二戸、コイツ（小津）黒見三戸の計九六戸で構成されていました。  
 一九四七年に改築された小中学校校舎の図面も載っており、平屋で四教室が横並びに並ぶ配置。一教室は二坪（約四〇平方メートル）で、職員室と職員住宅が別棟にあっただよう。

▼ 地域の状況

▼ 戦後すぐの校舎

### ●学校日誌 → 3・5年保存

学校の公式記録、古いほど詳細な記憶  
 残存の少ない公文書・私文書でも復元できない地域の日常の歴史記録

- ① 学校史的価値（自治体史、学校史）
- ② 教材的価値（昔の学校・地域）
- ③ 教育学的価値（共通語教育）
- ⑤ 地域史的価値（地域の現状）
- ⑫ 言語学的価値（方言の変化）

学校日誌 児童の風紀  
 大津小には、明治二五年から昭和六二年年まで、計九〇の学校日誌が残されています（一部合冊。昭和三年度分欠）。  
 明治四〇年前後、児童の風紀に関する記載が増加しており、校内に「児童風儀協議会」が設けられ、男子の方言を規制、女子の頭髪衛生指導が始まり、「方言正語比較表」が作られ、例えば「オヂヤー」→「オチサン」「オバヤン」→「オバサン」など、共通語教育が推進されていることが分かります。  
 大正七年には、「他人ノ食事、湯浴等ヲ視力又コト」などが訓辞され、翌年には、言葉遣いの改良が企図されて、「オトウサン・オカアサン・キミ・ボク・アナタ・ワタシ」の使用と、「ダラ」→「僕」「ホンマ」→「ホント・マコト・ジツサイ」「チクリ」→「下サイ」の語用が指示されています。



明治二五年の学校日誌

▼ 地域の方言、共通語教育

2021年2月の土佐清水市中央公民館  
 大津小学校展の展示パネルより

## ●学校日誌 → 古い日誌は近代の地域情報の宝庫

### ・災害とどう向き合った？ → 防災教育、防災啓発

大正2年(1913)7月18日「朝ヨリ降り続キ午後益々大雨トナリ日暮ヨリハ其勢ノ勢愈々激甚トナリ大水川ニ溢レテ東西ノ石崖約二間余ヲ崩潰シ」「臭水旧校舎ノ土間ヲ突キ」「流下セル岩石川ノ両側ヲ突キ当ル音響(中略)太鼓ヲタタクガ如ク四面荒マシキ雨水ノ響耳ヲツンザカントシ終夜寝ニ就カズ」と実況中継さながらの記載

### ・伝染病とどう向き合った？ → 新型コロナ禍の生涯学習

大正7年11月1日に「流行性感昌羅タルモノ出来たり」と記され4人が欠席、以後3人→13人→19人→19人→29人と増加し、「流行性感昌猛威を極め健康児僅ニ二十六名」として11月12日から1週間休校措置が取られた。再開予定の11月19日にも患者は減らずさらにもう1週間休校措置が取られている。11月27日の開校日も10人(82人中)が欠席、「大掃除 障子張」が29日まで3日間続けて行われている。

→ 明治期以降伝染病の流行時に行政が「大清潔法」を出して行われた一斉清掃

### ・戦時下の暮らし、生業？ → 戦争と地域、昔の暮らし

5・6月には「天草採り始ル」(昭和15年5月19日)、「テン草採り」(昭和16年6月25日)などがあり、寒天などの材料にある海藻の**テングサ採り**が始まっている。また、「農繁期ニツキ四十分授業」(昭和15年5月28日)、「農繁休(麦刈)」(昭和19年5月16~19日)の記載から**麦刈り**が行われている。6月には「桑の皮採集」(昭和15年6月6日)とあり、戦時時代に繊維製品の不足で代替品として奨励された**桑の皮の採集**を児童が行い供出している。

月	農業	漁業	林業	採集	その他
1月				テングサ採り	
2月					
3月					
4月	田植え?				
5月	麦刈り	カンオ漁?		テングサ採り	養蚕
6月		カンオ漁?		テングサ採り	養蚕
7月		イカ漁		貝採り	養蚕
8月	稲刈り?	カンオ漁?			養蚕
9月		カンオ漁?			養蚕
10月		カマス漁			養蚕
11月	しも掘り	イカ漁			
12月	麦まき?		木炭	テングサ採り	

大津小学校日誌より

②教材的価値  
(昔の学校・地域)

⑤地域史的価値  
(地域の現状)

⑥学術的価値  
(社会史の史料)

⑩社会的関係価値  
(防災、衛生、戦争、暮らし)



## ●学校文集 → 規定なし

子ども達の生の声、日常の記録。「われわれ(民俗学者)のレポートなぞよりこの数冊を読んでもらったほうが、どれほど村の生活がいきいきと伝わってくるやしない」(香月・本間1973)。

### ▼過疎化が進んだ昭和40・50年代 → 父の日・母の日特集

→ 大津の**家族の生活**や**家族の結びつき**を見直すことを視野に

### ▼変わる漁村の暮らし → 社会の変化が現れる、過疎と地域

「そんなお母さんにとって一番苦しくつかれるのは冬の小網の時です。冷い北風の中、まだ空には星の光っている頃から、ごむの手ぶくろを手に船をこぐ…」(6年女子)

昭和40年代 父親は遠洋漁業など出稼ぎ、母親が田畑を耕し家事育児。田など手間の掛かる作業は集落の結によって労働力を共有

「お母さんはみんしゅくをしています」「おとうさんはつりに来たおきやくさんをはこんだりおろしたりしてたいへん」(2年女子)

昭和50年代 形態は維持しながらも、小型定置網や民宿など新たな業態が登場し、そこに女性たちも関わる

### ▼地域でよく働く母親像、出稼ぎ・酒呑み・子ども思いの父親像

「遠洋漁業に行っているお父ちゃん…何もかもお父ちゃんの方までしなければならぬので、とにかくお母ちゃんの毎日は大変なのです」(5年女子)「港につくとすぐ電話をかけてきます。こうしゅう電話なのでわたしたちは話せません…いつも港につくと手紙をかきます」(5年女子)「とてもしろうちゅうがだいすきです」「のむ時ときどきみんなをおごる(怒る)」(2年男子)

大津小学校学校文集より

②教材的価値  
(昔の暮らし、家族)

⑤地域史的価値  
(地域の現状)

⑥学術的価値  
(民俗学の史料)

⑧産業史的価値  
(出稼ぎ、遠洋漁業)



作品・  
掲示物

⑨象徴的価値 ⑪アートな価値 ⑩社会的関係価値



寄贈品・  
教材

モノ資料や掲示物も  
地域の拠点に集まった資料



民具

⑤地域史的価値 ⑥学術的価値



中川内を「描く」  
子どもたちが絵などで描いた地域の風景、人、現在、未来。



標本



(3) 活用—歴史を、地域を、世代をつなぐ資料に… 象徴的・社会的関係価値

■ 追手前高校の学校博物館

生徒が日常的に資料を見られる空間

校舎の正面玄関に入って2階に上がっていく階段フロアに資料展示



過疎地域で統廃合によって次々と学校が無くなっていく昨今、校舎に残された学校資料を通して学校から地域社会を見る視点は、**学校が地域に果たした役割**を改めて考える上でも重要ではないだろうか



空き教室利用、廃校利用

→ 歴史を、地域を、  
世代をつなぐ学校（資料）



## 2、古い資料どう残す？

保存科学

### (1) 紙はなぜ劣化するか…

近代以降の文書は洋紙（パルプ紙）100年 和紙（コウゾ、ガンピ）

#### なぜ紙が劣化する？

紙資料が傷む原因は大まか3つで、光や温度、湿度、空気など資料を取り巻く環境で発生する「化学的要因」、カビや虫、ネズミが紙に被害を与えることで発生する「生物的要因」、人間による資料の取り扱いで発生する「物理的要因」があります。ほかにも、水害など自然災害によって資料が破損するケースもあります。

「酸化」 紙の主成分のセルロースが空気中の酸素と結合して変質・分解（温度上昇・太陽光）



### (2) 保管環境の管理で劣化を防ぐ、長持ちさせる

博物館のような収蔵庫管理はできなくても、保存環境を改善する方法はある

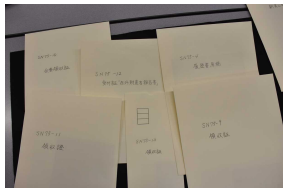


表1 材質に応じた温湿度条件

表1

(i) 温度	約20℃(人間にとって快適な温度)		
	フィルムについては、黒白フィルム16℃、カラーフィルム2℃(ISO規格)		
(ii) 湿度(相対湿度)	高湿度	100%	出土遺物(保存処置前のももの) 防湿処置が必要
	中湿度	55-65%	紙・木・染織品・漆
		50-65%	象牙・皮・羊皮紙・自然史関係の資料
		55-65%	油絵
		40-55%	化石
低湿度	45%以下	金属・石・陶磁器	塩分を含んだ物は先に脱塩処置が必要
	30%	写真フィルム	

※ 総合的にみて相対湿度は50%~65%が理想



#### 「酸化」対策 → 保存用具の利用

まずは遮光。吸水性の高いダンボールや木箱に入れる。封筒はホコリも防げる。重要な資料は、中性紙（弱アルカリ）の封筒・保存箱に保管したい。破損が心配な資料は中性紙の薄葉紙で包む。

※茶封筒は酸性紙のものも多く劣化を招く。ファイルは湿気が入り、カビ発生リスク。

#### 「湿気」対策 → 湿気のある場所を避けて置く

湿気の少なく風通しのよい2階に置く。箱を直接置かず、棚など床から離す。スノコを下に置くのも効果的。除湿器をたまに回す、水とりぞうさんなど除湿剤も。

#### 「虫害」対策 → 置き場所、箱内を清潔に

ホコリやカビが虫を呼び寄せる要因。置き場所や箱内を清潔に。和紙などには防虫剤も。虫損資料を同封する場合は、自主燻蒸も

#### 「物理的要因」対策

浸水しない場所に置く。古い重要な資料は写真を取っておいて閲覧する（レプリカ）。

# 3、どう整理保存する？ 地域での整理保存の流れ



## (1) 学校資料保存の課題

- ・学校現場での現用文書の年限を定めた文書管理規定に則り歴史的な学校資料の廃棄が進んでいる
  - 規定の改定等、歴史的な資料を守っていく法整備も検討する必要がある  
(新潟・埼玉などでは、高知ですぐには…、残す基準は棄てる基準…、地域の思いは…)
- ・保管場所がなく、継続して古い資料を保存していくのが難しい。
  - (休廃校の校舎など) 保管場所に決めてまずは棄てない対策を。  
(場所の確保は教委や役場側の動きが重要)
- ・個人情報保護の問題で、廃棄に至る事例がある。
  - 黒塗りや部分公開で個人情報保護しながら活用していく公文書公開のルールを適応する。  
(今後ノウハウの蓄積が必要)

【参考文献】 嶋田典人・目良裕昭ほか2020『シンポジウム高知県の学校資料を考える 記録集』  
高知県の学校資料を考える会（高知県の学校資料を考える会のホームページでPDF公開）

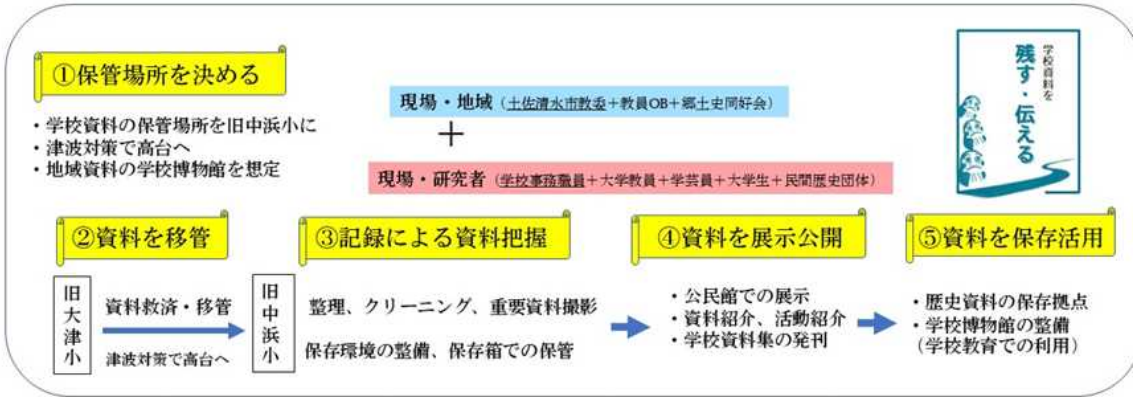
## (2) 保存に向けた県内外の動き

- 過疎化、学校統廃合、コミュニティ・地域力の衰退
  - 散逸の一方で地域をつなぐ資料として全国的に注目
  - 高知の動きは資料保存の全国研修会で報告など注目  
土佐清水をモデルに、「残す」動きが各自治体で加速化





### (3) 土佐清水モデルの可能性



室戸市教委が中川内小中学校跡を保管場所に同様のモデルで保存活動

(土佐清水モデル) → 学校・教委が主体になり、専門知識を持つ研究者らが支援



#### 【搬出】 資料を保管場所へ移動させる

棚など資料の配架状態を撮影し(①)、配架場所(例:職員室の棚)を記録して取り出し(②)、元の配架場所ごとに箱に入れ、仮番号を箱に書き運び出します(③)。保管場所では箱に蓋をする、薄用紙を掛けるなどして遮光し、湿気を防ぐため箱下にスノコを敷くなど直接床に置かないようにしましょう(④)。箱に入れたら、直接資料に触れないように防虫剤を入れて、虫害対策をしましょう(⑤)。光による紙焼けや虫が入るのを防ぐため蓋をしめて密閉して一時保管しましょう。



#### 【整理】 リスト(目録)を作成して資料の全体像を把握する

資料を箱から出し(⑥)、ホコリなどをハケで取ってクリーニングしながら(⑦)、箱ごとに資料番号(例32-1)を書いた付箋を挟んで(⑧)資料の表題を表計算ソフトに打ち込み、箱ごとに順番にリストを作っていく(⑨)。重要と思われる資料は撮影してデータを取って記録しましょう(⑩)。



#### 【保管】 保存環境を整えて資料が劣化しないように保管する

重要と思われる資料は、資料の劣化を防ぐ中性紙封筒に封入する(⑪)、中性紙保存箱に入れるなどして別置しましょう(⑫⑬)。箱に入れて保管する場合も、資料が劣化するため箱を閉めるなど資料に直接光が当たらないよう遮光対策を行いましょう。資料を保管する部屋は、湿気があまりない場所が好ましい。湿気やホコリは、カビや資料を食べる虫を呼び寄せる要因になります。定期的窓を開けるなど換気し、資料の周りはホコリがないように清潔に掃除しましょう。



段階的整理で「記録」→資料集や展示で「公開」

# 4、目録化の難しさ

東京大学公文書館、高知資料ネットの3段階目録

## (1) 清水・大津小資料の目録

4千点→2千点 約20人が関わり1年掛かりで作成 (計7日)

1次目録(2020) → 2次目録(2020) → 3次目録(2022)



目録によって展示、資料集、研究論文等が可能に

Table titled '大津小学校資料 概要調査目録' with columns for 調査場所, 点数, and 概要. It lists various items such as 左1 職員室, 左2 文庫, etc.

Table with columns: 資料番号, 種別, 項目, 資料集項目名, タイトル, 詳細内容. It details specific records and their contents.

### 1次

Large table titled '大津小学校資料目録 (2次目録・撮影済)' listing 資料番号, 種別, 項目, 資料集項目名, タイトル, 形態, 頁数. It includes details for items like '学校経営' and '留校生'.

### 3次

### 2次

## (2) 東京大学公文書館、高知資料ネットの3段階目録

資料の点数や価値に応じて、「調査レポート」「簡易目録」「概要目録」「詳細目録」を使い分けて、段階的に整理

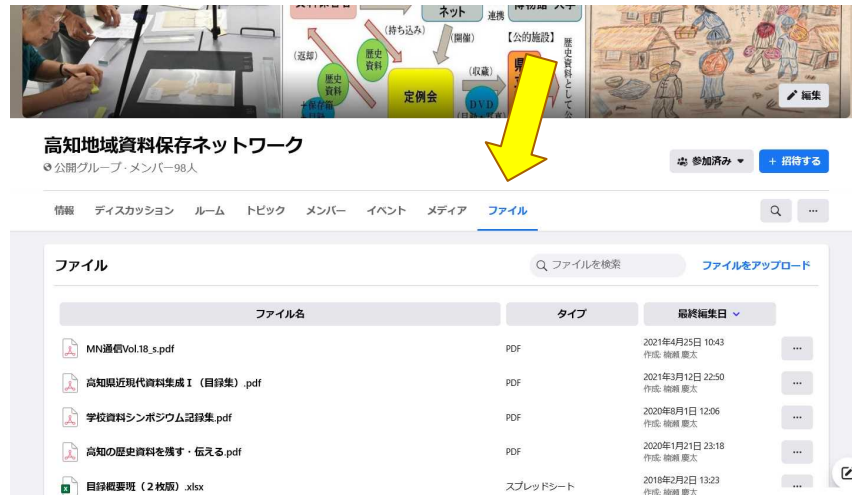
Section for '依光昇資料・依光浩典所蔵資料 (SN1)'. Includes a DVD collection title, a '簡易目録' (Easy Catalog), and a '概要目録' (Summary Catalog) with a small table of contents.

Section for '高知近代現代資料集成'. Includes a '簡易目録', '概要目録', and '詳細目録' with detailed descriptions and tables of contents for various historical documents.

Section for '依光昇資料・依光浩典所蔵資料 (SN1)' (Detailed). Includes a '詳細目録' (Detailed Catalog) with a table listing items, creators, dates, and formats.



## フェイスブックページの「ファイル」からダウンロード可



## 資料保存の冊子や 目録集はPDFを公開

### 5、おわりに

- 地域の中心だった学校に残された資料には、各住民で時代や関わり方は違っても、「学校」という共通の体験の一端が記され、若者や子どもたちに伝え、引き継ぎたい地域の記憶が織り込まれている
- 「活用」は難しいでなく、まずは棄てない、保存場所の確保を
- 「整理」する、地域の参画で、「活用」の可能性が広がる

→ 残していけば

公文書で地域をつなぐ、公文書で地域とつながる

－学校資料はその中でも魅力的な歴史資料

- 県内で広がり全国でも注目されるノウハウは、公文書管理にも応用できる？
- 地域教育、生涯学習、地域づくりにも活用を（個人情報保護に配慮しつつ）

展示、専門家の講演会もぜひ！

「学校日誌と学校文集」

高知城博・渡部館長



**学制150年企画展**

# 学校資料から見える世界

令和4年7月15日(金)▶9月26日(月)  
9時～17時 ※土・日・祝は臨時休館ですが、イベントのある令和4年8月21日(日)及び令和4年9月3日(土)は臨時開館します。

高知県立公文書館 1階展示室  
(高知県高知市丸の内1丁目1番10号)

**入場無料**

公文書類は、学校や役所などに残された記録を、地域地域で次の世代に引き継いでいく重要性について市町村に理解を促めていただく「市町村支援」の役割を担っています。地域に残されている学校資料も、当時の暮らしなど地域を知るための貴重な記録です。本企画展では、学校に残された資料を通じて地域の記録を未来に引き継いでいくことの重要性を伝えたいと思います。

**企画行事**  
令和4年8月21日(日) 14時～15時30分  
「学校日誌と学校文集～土佐清水市立大津小学校を事例に～」  
【講 師】高知県立高知城博史学館長 館長 渡部 淳氏

会場 高知県立公文書館2階研修室  
参加費 無料  
申込方法 電話・FAX・メールのいずれかで当館にお申し込みください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、変更・中止をする場合があります。最新情報は、ホームページでお知らせします。



**企画行事** 9月11日  
令和4年9月11日(日) 14時～15時30分

「学校日誌と学校文集～土佐清水市立大津小学校を事例に～」  
【講 師】高知県立高知城博史学館長 館長 渡部 淳氏

会場 高知県立公文書館2階研修室  
参加費 無料  
申込方法 電話・FAX・メールのいずれかで当館にお申し込みください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、変更・中止をする場合があります。最新情報は、ホームページでお知らせします。

※講演会の日は休日だが、展示室は開館

## 9月3日 (土) 講演会



大平聡教授  
(宮城学院女子大)

大学生らと宮城県全域の学校資料の調査を続け、相次ぎ閉校する学校と連携して、「学校資料を使った閉校展」を実施。

学校資料の整理・保存の第一人者

→ 学校日誌など学校資料の可能性語る

※講演会の日は休日だが、展示室は開館

令和4年度高知県立公文書館企画展「学校資料からみえる世界」関連講演

昭和16年12月8日開戦の日  
(重要記事に「宣戦/昭和16年」)

宮城県白石市立大鷹沢小学校旧蔵「学校日誌」(資料原本は、撮影後廃棄された)

昭和20年8月15日終戦の日  
(行事に「戦争終結」、黒塗りされる箇所も)

宮城県白石市立大鷹沢小学校旧蔵「学校日誌」(資料原本は、撮影後廃棄された)

**学校資料の力** — 保存し、活用する、10年の経験から

**日時** 令和4年9月3日(土)14:00～15:30  
**場所** 高知県立公文書館(高知市丸の内1丁目10)  
**参加費** 無料  
**講師** おおひら さん 大平 聡 氏 (宮城学院女子大学教授)

宮城県内各地の小学校を訪問し、学校資料の調査・保全活動を続け、資料から学校史・地域史を明らかにし、戦争の時代を伝える教育実践に取り組みられています。講演では、地域資料・教育資料としての重要性と可能性、学校現場での調査・保全活動の経験などを、実際の資料写真を使いながら、お話しさせていただきます。

主催:高知県の学校資料を考える会 連絡先:事務局(楠瀬) 090-5272-8852

(お願い)  
\*参加希望の方は、事務局のメール(kusuke31@yahoo.co.jp)にお名前・連絡先を送信してください。  
\*開催当日、発熱・せき等の症状がある方、マスク未着用の方は参加できませんので、ご了承ください。  
\*新型コロナウイルス感染症拡大状況により、変更又は中止になる場合があります。